

彦根中央 リハビリぽすと

令和 2 年 7 月 号

〒522-0054 彦根市西今町 369-1

Tel 0749-22-7005 Fax 21-3981

<http://www.hikone-rehacl.com/>

受付から

夏もコロナは続く？

一般的に呼吸器に影響を及ぼす感染症は夏になると流行が少なくなります。例えばインフルエンザが冬に爆発的に流行するのに対して夏になるとほとんどインフルエンザに罹った患者さんがいなくなるというのが良い例です。

日本は四季があり、6月の梅雨の時期から8月までは高温多湿の環境となるため、新型コロナウイルスの感染力が弱まる可能性が考えられます。しかし、新型コロナウイルスは熱帯地域でも感染者が確認されているということもあり、完全にウイルスを死滅させる可能性は幾位と考えられています。実際にWHOも2020年4月22日、COVID-19は今後長期にわたり地球上から消えることはないとの見通しを示しています。また、近年温暖化の影響もあり、日本では夏の暑さが増しています。そうすると、エアコンを利用することが増え、エアコンの使用によって夏でも室内が乾燥しているという場所もあります。よって、この夏は今後も新型コロナウイルスが夏になれば終息するという可能性を断言することはできず、現段階では夏場もマスクの使用やソーシャルディスタンスを継続するなど、感染対策は必要となることが考えられます。

健康コラム

夏場のマスク、熱中症リスクは？

夏場もマスクを使い続けているという方は少ないのではないのでしょうか。夏場にマスクを使用することが不慣れな方において最も注意していただきたいのが熱中症です。夏場のマスクの使用は熱中症のリスクを高めることが考えられています。

そもそも人は夏になって気温が高くなり体内に熱がこもると汗をかいたり、呼吸をして冷えた空気を体内に取り込んだりすることで熱を発散していき、体温調節を行います。ですが、マスクをしていると自分の呼吸によって温かい空気しか入ってこないため、呼吸で身体を冷やすことが難しく、むしろ体温を上昇させてしまいます。また、顔の半分ほどがマスクで覆われることによって熱がこもりやすくなります。

このように熱がこもりやすく発散しにくくなっているのに加えて、マスクによる加湿で口の渇きを感じにくくなるため、熱中症に気づくのが遅くなり、マスクなしで過ごしていた時よりも熱中症になるリスクは高まると考えられています。気象庁によると今年の夏は平年並みか平年よりも高めであることが見込まれており、尚のこと、平年よりも熱中症のリスクは高まると考えておくといよいでしょう。熱中症となり、医療機関を利用せざるを得なくなってしまうとただでさえ新型コロナウイルスの影響によってひっ迫している医療機関にさらなるダメージを与え、医療崩壊のきっかけとなってしまいかもかもしれません。熱中症のリスクが高いということを念頭に置き、予防をしながら自分自身の体調、そして日本の医療体制をも守っていききたいものです。

診察医のご案内

	月	火	水	木	金	土
午前	吉田	吉田	吉田	×	吉田	新庄
午後	吉田	吉田	×	×	吉田	新庄

午前診察 9:00～12:00 休診日：日曜・木曜・祭日

午後診察 4:30～6:30

第1・第3火曜は午前・午後とも新庄先生になります。

ご連絡

毎月一度は、保険証を提出して頂き、確認をお願いします。7月は健康保険証の切り換え時期でもありますので、特にお願いします。

